



令和4年度北海道開発局事業概要

「空港整備事業」

国土交通省北海道開発局港湾空港部空港・防災課

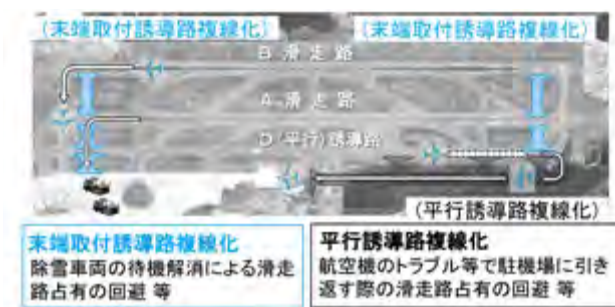
事業実施の基本的な考え方

北海道開発局が実施する空港整備事業は、第8期北海道総合開発計画を踏まえ、「世界水準の観光地の形成」及び「強靱で持続可能な国土の形成」を推進するため、新千歳空港など5空港等において、国内外の旅行者の受け入れ環境整備、空港施設の耐震化など安心・安全な社会基盤の形成に向けた事業を推進します。

1 世界水準の観光地の形成

(1) 国内外旅行者の受入環境整備

新千歳空港では、除雪作業時でも航空機を優先して走行させるため、除雪車両は航空機が通過するまで滑走路上で待機する必要があることから、除雪作業に多くの時間を要することとなります。また、航空機がトラブル等によりターミナルへ引き返すような場合、トラブル機が滑走路上を走行することによって一時的に滑走路を占有することとなり、後続の航空機の運用に制約が生じています。こういった状況において発生する航空機の遅延や欠航が冬期間の新千歳空港の課題となっていることから、末端取付誘導路など誘導路の複線化事業等により航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備を推進します。



整備イメージ図

2 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 空港施設の耐震対策

大規模地震発災時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、新千歳空港において滑走路等の

地下にある構造物の耐震対策を推進します。

(2) 滑走路端安全区域（RESA）の整備

航空機が離着陸する際に滑走路を越えて走行し停止する「オーバーラン」、航空機が着陸時に滑走路手前に着地してしまう「アンダーシュート」を起こした場合、人命や航空機の損傷を軽減させるため、新千歳空港等で滑走路端安全区域（RESA）の整備を推進します。



(3) 空港の浸水対策

近年の気候変動の影響に伴う豪雨による空港施設の浸水を防止するため、函館空港及び稚内空港において排水機能強化による浸水対策を推進します。